

## 日本リンパ網内系学会プログラム委員会 議事録

開催日時：平成 28 年 5 月 20 日（金）16:00~17:00

開催場所：名古屋大学医学部 鶴友会館 2 階大会議室

出席者（敬称略）：

次期会長：三浦偉久男，次期会長推薦：磯部泰司

次次期会長：中村栄男，次次期会長推薦：加藤省一

学術企画委員：大島孝一，鈴木律朗

教育委員：鈴宮淳司，田丸淳一

### 議題

#### 1. 第 57 回リンパリンパ網内系学会総会プログラムについて

三浦次期会長から、次回の総会（平成 29 年 6 月 29 日（木）～7 月 1 日（土），場所：東京都新宿区の京王プラザホテル）のプログラムの内容・スケジュールについて説明があった。製薬会社からの寄付等の援助が厳しい状況であり、治療について新薬が登場している多発性骨髄腫にも焦点を置いてプログラムを組んだ。

1) 第 27 回樹状細胞研究会との兼ね合いで、2 日目のスケジュールがタイトになったため、リンパ網内系学会の優秀演題口演の予定がまだ決まっていない。

田丸委員より、どれくらいの演題数と時間が必要かという質問があり、第 56 回の予定は最大 15 演題で 1 時間枠に 5 演題まで、3 時間だったと確認した。三浦次期会長からそこまで多くする必要があるかと提起されたが、そこまで必要はないという結論となった。鈴宮委員より、初日に優秀演題の口演を持ってきて、レセプションで表彰するのはどうかという提案があった。また COI 講習会が 30 分間の予定だったものを短縮し、2 日目のシンポジウムを一つ 3 日目に回して 2 日目に優秀演題の時間をつくる、などの案が出た。三浦次期会長から次期会長より時間枠を決めて、演題数を決めていくと説明があり、異論は特に出なかった。

2) 1 日目はサテライトセミナーとして、今年来ていただく予定だった Elias Campo 先生（座長は竹屋元裕先生）にお願いする。

こちらは特に意見は出なかった。

3) 2 日目には温故知新というテーマに従い、樹状細胞研究会と合同の特別講演として、高橋潔先生にお話しいただく。その際座長を内藤先生か竹屋先生にお願いする予定である。

鈴木委員より講演内容の確認があり、テーマとしては網内系学会の歴史というより、研究内容から概念の変遷など、若い先生があまり知らない網内系とは何かという点でお願いすると三浦次期会長から説明があった。各委員から、高橋先生のご体調やスケジュール通りに講演が進められるか不安の意見があり、鈴木委員から、もし高橋先生のご体調が難しければ会長講演とす

るべきだと提案があった。また中村次次期会長から、座長にはうまく進行をコントロールできる人を置くべきだと提案があった。大島委員、鈴宮委員から、今給黎総合病院の佐藤先生にお願いしたらどうかという意見もあった。事情に詳しい竹屋先生と相談して決定することになった。

4) もう一つの特別講演では、下山正徳先生にお願いすることになった。

下山先生の講演時間も、余裕をもって設定するよう各委員から意見が出た。こちらも座長を誰にするかによって変わるという話になった。飛内先生、同期の平野先生などの意見が出たが、鈴宮委員からの提案で、堀田知光先生が適任ではないかということで、各委員の意見が一致した。三浦次期会長から堀田先生に打診してみるとことになった。

5) シンポジウムは 5 つで、1 つ目は Campo 先生を含めて B 細胞リンパ腫の分子病態中心の内容となる。2 つ目は T/NK 細胞で、3 つ目はリンパ腫周辺疾患の診断・病態、4 つ目は多発性骨髄腫を飯田真介先生と骨髄腫学会とまた違った視点から内容を組んだ。最後の 5 つ目はリンパ腫の治療と支持療法についての内容となる。

三浦時期会長から Campo 先生と渡邊俊樹先生の時間を少し長めに設定する予定であると説明があったが、特に異論はなかった。PD-1 抗体などでは本庶佑先生ご自身を呼ぶのはという提案が大島委員、田丸委員から提案があったが、特別講演並みの設定をする必要があり、スケジュール的に難しいという意見が多く、今回はお願いしないことになった。また形質細胞種や MALT などの診断で、病理の先生が苦労されることがあると思うが、その点を稻垣宏先生にお願いしようと思っているがどうかと提案があった。大島委員から吉野先生のところもいいかも知れないと提案があり、直接稻垣先生に相談してみてはと提案があった。

6) 3 日目の最終日には、ポスター討論と同時に、リンパ腫・骨髄腫の症例を提示してもらって染色体異常の解説を三浦次期会長と谷脇雅史先生とで解説していただくコーナーを設けた。

鈴木委員からポスター討論と一緒にすると、参加者の分布が偏るので、別にした方が良いと提案があり、時間をずらす方針となつた。また、鈴宮委員から学生のポスター参加を行うのはどうかと提案があった。学生時代から血液病理医や血液内科医に興味を持っていただくようにする手立てとして考慮する方針となつた。

7) 最終日の若手セミナーは武田薬品株式会社がスポンサーとなり、Hodgkin リンパ腫あるいは CD30 陽性リンパ腫の内容となつた。

例年 4 時間以上の設定となつてはいるが、そこまで長くする必要があるかと三浦時期会長から質問があったが、鈴宮委員よりそこまで長くする必要はないのではないかと意見があり、特に異論は出なかつた。若手セミナーについては 3 時間くらいの設定とし、空いた時間を有効に使うことになつた。

8) ランチョンやモーニングセミナーについて

三浦次期会長から協賛を多く得るために、骨髄腫のテーマを多く入れる工夫をしていると説明があった。鈴木、鈴宮委員から、感染症も加えてはという提案があった。より多くの企業からの協賛を得るために、なるべく多種のセミナーを企画する方針となった。

## 2. 協賛金や総会での収入を増やすための手立てについて

### 1) プログラム冊子の活用

プログラムの裏表紙などを利用して、広告料を増やしたらどうかという提案が鈴宮委員からあった。学会では2つの企業だけの契約になっているので、それ以外の広告収入は総会の収入にして構わないのではという意見でまとまった。

### 2) 企業の支援プログラムの活用

製薬協などに参加していない企業では、直接学会などの補助を行っているところもあり、それらを活用することも提案された。